

第9回臨床栄養指導 認定動物看護師1級2次試験 合格発表

01181002	01181004	01181005	01181006
01181007	01181008	01181009	01181012
02181001	02181002	02181003	02181005
02181008	02181010	02181011	02181013
02181015	02181016	02181017	02181018

第9回 臨床栄養指導 認定動物看護師1級2次試験を終えて

近年、医療現場は「問診」から「医療面接」と呼ぶように言葉が変化してきました。これは医療の主役は医療者だけではなく、医療者と患者で行う共同の行為としてみなすようになってきたからです。特に獣医療現場における栄養指導は、飼い主に情報を伝えるだけでは動物を救うことはできず、飼い主の行動変容を伴って初めて達成されます。そのためには従来のコンプライアンスという考え方ではなく、アドヒアランスに基づいた考え方が重要です。アドヒアランスを高めるため、医療面接の基本である 1) 信頼関係の形成、2) 傾聴、3) 十分な情報提供が成されているか振り返ってみましょう。

コンプライアンス：動物病院スタッフの指示や助言に対して、クライアントがその内容を忠実に遵守する度合い

アドヒアランス：クライアントが治療法や解決法の決定の段階から積極的に参加し、いったん了承したことは監視なしで継続する度合い

療法食は適切な栄養管理を行うためのツールでしかなく、「栄養指導」＝「療法食の説明」ではありません。療法食の説明に終始してしまえば、それは「栄養指導」ではなく「販売」でしかありません。また療法食の内容についての理解が正確でない方も多く見受けられました。各メーカーによって栄養特性は異なります。誤った情報提供をしないよう、もう一度メーカーのガイドブックを読み直したり、営業の方に確認してみたりしてみましょう。

今回の面接では、疾患の理解が十分でない方が多く見受けられました。概要は理解しているものの正確性に欠け、致命的な間違いを犯してしまっているケースもありました。インプットによる学習ばかりしているとこのような状態になりがちであり、アウトプットの機会を増やすことが重要です。頭の中で十分理解していると思っていても、口に出してみると中々うまく言語化できないものです。実践を積むことも重要ですが、院内でも医療面接をスタッフ間で行うなどして知識が曖昧である部分を浮き彫りにしていくような作業も改善に役立ちます。

一般社団法人 日本動物看護職協会
栄養認定委員会